P98-99

SH—9

SH—19

SH—39

の構造

ラーメンとピンの併用

SH—9の構造

前頁の写真はSH—9構造模型である。この住宅はピン構造だけだと中央部にどうしてもすじかいかが欲しいが、平面上は大変邪魔になるので、それをさけるためすじかいのかわりにラーメンを使い、ピンとラーメンを併用した例である。写真をよく見て戴けばわかるが、ラーメン部分の梁と柱は他より太くなっている。

SH—19の構造

上の写真の建物は、横力を受けるためのすじかいを全て取り去るために、柱を基礎に埋め込んで、基礎と柱の接合部ラーメンとした特殊な構造である。

この構造は、筋違を除く目的は果してくれたが、柱脚部の防錆とか柱の位置を正確にできないなどの欠点を持っている。

P102-103

SH—30

1959年設計

施工・川上土地建物株式会社

家具製作　　　　創　建　社

家はすまいを覆う外被です。外界のわずらわしいものからすまいを隔離し、また外界の必要なものは取り入れなければなりません。

透すもの、遮ぎるもの

“すまいの目的とは”と開きなおるまでもなく、家を求める人々にとっては”住み心持のよい”ことが第一の目的にちがいない。それでは心持よく住めるというのはどういうことなのだろうか。

美しいとか感じがよいとかいうことも、一つの理由に違いない。しかしこれをよく考えてみると、はなはだ抽象的何のことやらわからない。ところが、同じことでもこの家は明るくて気持がよいといった表現になると、かなり具体性を持ってくる。同じ主観的ないいかたでも、この煉瓦の壁は美しい。といえば煉瓦を好もしく感じているのだなということがわかる。

といった具合に、この家はいいとか悪いという一見主観的な判断と考えられることも、実際には具体的な対象に置きかえることができるはずである。

よく主観による判断の中で、習慣やしきたりから定説化してしまったり、一般の傾向といったものに影響されて、そういうものであると思い込んでしまっているものが一寸角度を変えてみるととんだナンセンスであったという例を見聞きする。

ことにすまいのように特別な技術のいるものは、これを構成しているさまざまな技術や材料にこうした主観的判断がいちいちつきまとうので、これが建物の価値を決定する重要な役割を果すものだけに、その適否の影響するところはきわめて大きいといわなければならない。

そこで主観は主観なりに、適切な客観性に裏付けられていなければ単なる独断になってしまう。独断になるばかりでなく無駄に費用がかかるだけで、一向に効果が上らないという経済的な負担になってはねかえってくることにもなりかねない。

住宅建築とは、すまいを覆う外被であると考えると、外界からすまいを隔離することだともいえる。

隔離するにはまず、すまいの内と外との間を”遮ぎる”必要がある。”遮ぎるもの”はすまいの外被であり、”遮ぎられるもの”は人為天然を問わず森羅万象の全てであるということになる。

遮ぎられるものを、光・水・熱・火・空気・音・視線・人などと考え、これらに抵抗するものが、”遮ぎるもの”であると考える。

ただやたらに隔離してしまったのでは呼吸もできなくなってしまうので、適当に通してやらなければならない。”透すもの”もやはり人為天然、森羅万象であって、これらが上手に利用されているすまいこそよい住宅建築といえるのである。

P114

台所と浴室

途中一寸道草を食ってしまったが、次に仕切られた各部屋を見ていこう。

上の写真は台所で、左側が流しやレンヂのあるカウンター、右の窓の下は配膳台になっている。右手前の白い箱は洗濯用乾燥機を改造した食器乾燥機。

小戸棚につく引手は全部外に出張らないように設計されている。これは台所のように比較的涼しく行動する場所で、身体が引手に当ったり、当るのを注意しなければならないのを避けるためである。

左の写真は浴室で、窓のカーテンを開けると天井から浴槽のふちまで開いた硝子を通して庭が見える。